

# 品川稲門会会報 15

<http://www.shinagawa-waseda.net>

会長ごあいさつ

## 会の行事にぜひご参加ください

品川稲門会会長 塚田成四郎 (S50法)

品川稲門会の年間行事を1月からご紹介いたします。まず、正月の3日に箱根駅伝復路の応援会があります。今年は新年会も兼ねて行いました。品川女子学院のご厚意により、カフェテリアをお借りして、午前11時に開会しました。新年の挨拶と乾杯の後、大型スクリーンでテレビの駅伝中継を見ながら歓談します。

品川女子学院に駅伝ランナーが近づくと第一京浜の沿道に繰り出して、早稲田の応援旗を振りながら校歌を唱います。この区間は最終の10区です。今年の10区のランナーは谷口耕一郎君で、襷を受け取ってから1人抜いて順位を押し上げ、総合順位3位となりました。2月に恵比寿で行われた選手慰労会で同じテーブルになったときに訊いたところ、品川稲門会が唱う「都の西北」をはっきりと聞き、力が出たと言ってくれました。瀬古さんからはシード落ちもありうると聞かされていたので、早稲田としてはまずまずの結果であったと思います。

駅伝応援が終わると、松の内の七福神めぐりがあります。今年は小石川七福神めぐりを行いました。

毎年3月には東京都23区支部大会があります。今年は3月18日に大隈講堂とリーガロイヤル東京で開催され、品川稲門会からも16名が参加しました。

早慶明大学対抗ジャズフェスティバルが、毎年母の日の大森のベルポートで開催されます。品川稲門会は大田稲門会などとバックアップしています。今年は早稲田大学ハイ・ソサエティ・オーケストラが優勝しました。

5月10日には、春のゴルフ会の懇親会がロッテ皆吉台カントリークラブで開催されました。ゴルフは春と秋の2回開催されます。秋のゴルフ会は昨年11月13日にグレンオークスクラブで開催されました。

春のウォーキングは、6月2日に行われました。今年3月、早稲田キャンパス1号館1階に「早稲田大学歴史館」がオープンしましたので、訪問しました。館内は、久遠の理想エリア、進取の精神エリア、聳ゆる薨エリアと、校歌から取った名前が付けられた常設展示室があります。久遠の理想エリアのエントリールームの壁には、早稲田大学の通史が一覧できる年表があります。また、中央には「早稲田を創った若者たち」と展示があります。

でもここには大隈重信の名前はありません。大隈は当時政治家として多忙でした。その大隈の右腕となったのは小野梓で、彼を慕って集まったのが高田早苗、天野為之、市島謙吉、坪内逍遙の「四尊」でした。ここでは彼らが活躍した軌跡と実績を振り返っています。

東京専門学校のコーナーも歴史を知る上で重要です。大隈は、いわゆる「明治十四年の政変」で政府を追われました。その翌年に東京専門学校を創立したので、政府のさまざまな弾圧があり、それなのに耐えて学の独立を守るべく、大隈は校長になるどころか開校式にも出席せず、長い間、学校の表舞台に立つことがなかったそうです。

歴史館を出て、歩いて20分ほどのところにある「漱石山房記念館」を訪れました。夏目漱石が早稲田大学からこんなに近くに住んでいたとは驚きでした。

昼食会は、神楽坂の「鳥茶屋」に行きました。料理は鳥ではなくうどんでしたが、大変美味しかったです。

なお、秋のウォーキングは昨年11月19日に、府中の大國魂神社と国分寺のお鷹の道をめぐりました。

9月8日には、第27回の品川稲門会の総会を開きます。会場は、品川駅前のホテルグース地下1階、TKPガーデンシティ品川です。皆様のご参加をお願いいたします。

10月21日にはホームカミングデーに併せて稲門祭が開かれます。品川稲門会は大隈庭園で、焼きそば・飲み物などの模擬店を出店しています。どなたも参加できる早稲田OBおよびOGの祭り日です。久しぶりに早稲田へ足をのばしてみたいかがでしょうか。

一人でも多く、品川稲門会の行事に参加していただきたくお願いいたします。



品川稲門会会報15号 2018年8月1日発行  
発行 = 品川稲門会 発行人 = 塚田成四郎  
事務局 = 〒140-0004 品川区南品川4-5-4-222  
渡辺寿士 (TEL.03-3471-7524)  
印刷所 = (有)大成閣印刷



# 箱根駅伝応援会と新年会

毎年1月3日は恒例の新年行事として、箱根駅伝復路の応援会を品川女子学院のカフェテリアを会場にして開催してきました。今年は新年賀詞交換会も兼ねて行いました。

11時頃には、濱野健品川区長や品川女子学院の漆志穂子校長をはじめとした品川稲門会会員のほか、北稲門会や年次稲門会などの会員も続々と集合して、用意されたテーブルはいっぱいとなりました。

年頭の挨拶と乾杯の後、大スクリーンに映る第94回箱根駅伝復路のテレビ中継に歓声が上がリ、すっかり応援ムードとなりました。9区で清水歓太選手が区間賞の快走で順位を押し上げ、応援はますます盛り上がりしました。

10区のランナーが六郷橋を渡って近づいたとの知らせで、品川女子学院正門前の第一京浜沿道に出ました。皆一斉にWの小旗を持って、「都の西北」を大合唱し、応援は最高潮に達しました。その前を、早稲田の走者谷口耕一郎選手が颯爽と走って行きました。ちなみに谷口選手は、エンジにWのユニホームに憧れて一般入試を突破して競争部に入ったと、テレビで紹介されていました。

予想ではあまり期待できないと聞いていたので、総合3位の成績に大感激でした。

今年度は清水歓太選手が駅伝主将となり、有望選手の名前も聞かれるので、来年正月が楽しみです。皆さんどうぞ、1月3日の箱根駅伝応援会および新年会へご参加ください。  
(中澤郁子 S33 教育)





# 2017年度東京都23区支部大会

今年は、葛飾稲門会が支部長区で支部長区輪番制最後の年となった。永年の議論の末、来年からはブロック輪番制となる。2018年3月18日に東京都23区支部大会が開催された。品川稲門会から16名が出席した。

第一部「講演会」は、本学OBの現静岡県知事の川勝平太氏が、大隈記念講堂において演題『富士山・稲穂・世界』で早稲田・日本を中心に、日本史的・世界的視点で豊富な引用をもとに壮大なスケールでお話しされた。

川勝知事は、早稲田大学に1975年から94年まで勤務された。政治経済学部にて助手、講師、助教授を経て、90年4月に教授に昇任した。日本経済史を講義され、川勝ゼミのテーマは「日本と世界経済ー長期的・理論的・実証的接近ー」であった。日本を象徴する富士山と早稲田のシンボルでもある稲穂という言葉を引き合いに、この激動の世界で日本と早稲田がどのような使命を持ち、どのような役割を果たせるのか熱く語られた。

第二部「懇親会」は、会場をリーガロイヤル東京に移し、320名の参加者で執り行われた。小林弘和支部長より開会が宣言された。鎌田薫早稲田大学総長がご挨拶を述べ



られた。総長は今年11月で8年の任期を終え退任される。総長選挙を実施できることが素晴らしいことであり、未来に発展する鍵であると示してくださった。島田陽一副総長の乾杯。アトラクションには応援部による指揮のもと、「紺碧の空」「早稲田の栄光」を皆で歌った。校歌「都の西北」斉唱の後には、高田宜美2018年度支部長より今後の展望を伝えつつ中締めとなった。

(勝山宏則 H2 理工)

## 小石川七福神めぐり

ウォーキングは、何回か参加させていただいておりましたが、七福神めぐりに初めての参加しました。お正月にとても縁起良く、心が整うイメージで、とても楽しみにしておりました。

当日は丸ノ内線茗荷谷駅に集合。駅周辺のこの一帯は、小石川台地と小日向台地の間の谷で、古くからミョウガの産地として有名でした。「茗荷谷」の名は現在、駅名として残っています。



小石川七福神は、茗荷谷駅から後樂園駅周辺にあり、所要時間は2時間くらいでした。

小石川七福神は、七福神ではなく八福神でした。弁財天は通常は女弁天ですが、ほかに男弁天があるのです。男弁天は宇賀神様で、男の顔をした人頭蛇身です。

また、東京ドームの人工庭園内やマンションの敷地内というように、寺社ではない場所にも福の神が祀られていることが大変印象に残りました。

順路は、茗荷谷駅→恵比寿の深光寺→男弁天の徳雲寺→女弁天の極楽水(小石川パークタワー)→寿老人の宗慶寺→布袋尊の真珠院→大黒天の福聚院→毘沙門天の源覚寺→福祿寿の東京ドーム内でした。ご朱印いただきながらめぐり、それぞれの想いでおまいりました。

お楽しみの昼食会は、水道橋駅近くにある「ラ・クッチーナ・ビバーチェ」で美味しいイタリアン。親睦を深めながら、楽しいひとときを過ごしました。

幹事の長谷山さんはじめ、皆様のおかげさまで、素晴らしい実りある一日を過ごさせていただきました。ありがとうございます！次回も楽しみにしております。

(佐藤清美 S58 政経)



# ウォーキングの会

## ■秋のウォーキング

絶好の行楽日和となった11月19日、府中市の大國魂神社参拝と国分寺市のお鷹の道散策を楽しみました。

京王線府中駅を出ると大國魂神社の大鳥居まで、国の天然記念物に指定された樺の並木通りがあります。

大國魂神社には、前九年の役で源頼義・義家親子が、品川の海から大國魂神社まで潮水を運んで禊ぎをし、戦勝を祈願しました。いわゆる品川道です。

大國魂神社で、各自の思いを込めて参拝した後、バスを乗り継いで、国分寺跡地公園を訪れました。広大な敷地の中に立って当時の繁栄に想いを馳せました。

そして、最終目的地は「お鷹の道」。この辺りは江戸時代には尾張徳川家の鷹狩りの場でした。現在、崖線下の湧水が集まり野川にそそぐ清流沿いの小径が遊歩道として整備されています。遊歩道を進むと真姿の池湧水群に到達します。国分寺を代表するこの名所は、環境の良さを評価され、名水百選の一つに選ばれています。



## ■春のウォーキング

6月3日、「早稲田大学歴史館」と「漱石山房記念館」を訪れました。早稲田大学では、既存の坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館等に加え、今年3月20日に早稲田キャンパス1号館1階に「早稲田大学歴史館」を開館しました。

館内の常設展示室は、3つのエリアに分かれ、それぞれ、「久遠の理想」「進取の精神」「聳ゆる麓」と、校歌からの名前が付けられています。リサーチルームの壁一面には早稲田大学の長い歴史を一覧できる年表があります。「自分が大学にいたときはこんな時代だった」「そのときの総長は誰だった」など、自分の学生時代と重ね合わせることができ、時間が経つのを忘れてしまいました。

正門から20分歩くと早稲田南町に「漱石山房記念館」があります。この記念館は昨年秋に建てられ、夏目漱石が晩年の9年間を過ごした家が再現展示されています。作品なども展示されていて、漱石の偉業を勉強することができました。  
(小林義行 S42 理工)

# 第18回 早慶明ビッグバンド ジャズフェスティバル

早慶明の実力バンドが覇を競う本大会も18回目の歴史を重ね、今年は5月13日の母の日に恒例の「大森ベルポート(品川区)」にて開催されました。品川稲門会では、大田稲門会や慶應義塾大学と明治大学のOB&OGと連携し、このフェスティバルの企画運営を支援しています。

毎年盛り込まれるテーマ曲。今回テーマの「昔懐かしの映画音楽」に、思い出のシーンも蘇り、立ち見も出る満員の会場はSWINGし、酔いしれました。そして、会場の拍手で優勝校を決める審査タイム。今年一番の拍手を



浴びたのは、我らが「早稲田大学ハイ・ソサエティ・オーケストラ」という最高の結果となりました！

横山大森駅長、濱野品川区長、松原大田区長に登壇いただいた表彰式の余韻も冷めやらぬまま、フェスティバルはお楽しみの第二部へ。

地元密着イベントとして近年すっかり定着した、地元高校(今年は大森学園高等学校)と3大学からのピックアップメンバー共演の幕開けに続き、いよいよビッグゲストが登場。大隅寿夫(ドラム)、拓也(サクソ)の父子プレーヤーと3大学バンド代表がコラボ演奏し、プロ司会者の吉田純也さんもボーカルマイクを握ってJOINし、ジャズならではの最高潮の盛り上がりです。最後にゲストプレーヤーのお二人に、品川女子学院吹奏楽部の生徒さんから花束が贈られて、華やかなエンディングとなりました。

大学や地域、世代の枠を超えて、いっしょに母の日の半日を素敵な演奏の数々で楽しめますので、どうか来年も多くの校友の皆様にご来場をいただけるよう願っています。  
(松井博之 S52 政経)



# 稲門祭とホームカミングデー

2017年10月15日、卒業25年や50年等の校友が招待されるホームカミングデーに合わせて開催された稲門祭。今回はあいにくの雨でしたが、校友やご家族、現役学生やご友人など、約1万2千人が集まりました。大隈講堂をはじめキャンパス内で様々なイベントが催され、ジャズのトークライブ、音楽祭、囲碁・将棋大会やちょっと真面目なトークセッションからKIDS向けのイベントまで飽きることがありません。模擬店も出店されています。我々品川稲門会は毎年、大隈庭園の一角にテントを張



り、焼きそばの店を出しています。大隈庭園の中央付近にパフォーマンス用のステージが設置され、それを取り囲むように東京23区支部や東京三多摩支部、神奈川県支部などが模擬店を出店しています。

今回はフランクフルトとホットコーヒーをメニューに加えて売上増を目指しましたが、天気に恵まれず、お客さんの集まりが今一つで、目標には届きませんでした。それでも、店をオペレーションしてくれた(株)マコトさんの機転で、当日の気温に合わせてアイスクリームの販売を取りやめて飲み物を全てホットに変更することにより売上の減少を抑えることが出来ました。特に、お酒好きのお客さんには熱燗が好評でした。

2018年の稲門祭は10月21日(日)に開催されます。今年のテーマは「WASEDA DNA 私たちには同じ血が流れている」です。同じDNAを持つ人達が集まるお祭りですから、なんだか懐かしく、楽しく、心躍るイベントです。卒業年次に関係なくぜひご参加ください。今年も我ら品川稲門会は大隈庭園で模擬店を出しますので、ぜひお立ち寄りください。(今井将雄 S63 政経)

# ゴルフ懇親会

## ■第59回品川稲門会ゴルフ懇親会

秋のゴルフ大会は、2017年10月13日に成田空港近くのグレンオークスCCで開催されました。この時期には珍しく朝靄が立ち込めていましたが、玉木光生さんの86歳を先頭に、幅広い年齢層の12名が参加しスタートしました。多少霧雨が漂うこともありましたが、丸一日楽しいゴルフを満喫しました。

このコースは過去に女子プロ大会を開催の難コースですが、皆さん、流石の腕前を披露されました。

優勝は久しぶりにゴルフ復帰を果たした豊川秀康さんで、準優勝は住友光男さんでした。懇親会では、いつものように和やかにゴルフ談議が広がりました。

## ■第60回品川稲門会ゴルフ懇親会

記念すべき第60回ゴルフ大会が、2018年5月10日に、ゴルフ愛好家11名参加のもと、ロッテ皆吉台カントリー倶楽部にて開催されました。

スタート前はやや天候が心配でしたが、幹事である私の日頃の行いが良かった？ことから雨に降られることもなく、和気藹々と楽しいラウンドし、全員無事に完走しました。このコースはグリーンが大きくオンしやすく見えますが複雑で、キャディさんが優しくアドバイスしてくれるものの、パットに悩んだ方もいたようでした。

競技は新ペリアのハンデ方式に自由度を持たせ、すべての参加者に優勝のチャンスがありました。大接戦となりましたが、優勝は私、長久保敏で、準優勝は飯島弘司さんでした。



懇親会で楽しくプレーを振り返り、優勝者をはじめ入賞者のスピーチに止まらず、全員一言を披露して散会となりました。(長久保 敏 S45 理工)



## 幹事長ごあいさつ



前号の発行された昨年8月以降の1年を振り返ります。8月26日、大崎で行われた若手校友の集い。3回目を迎えた今回は総勢60名の参加者があり、その数は年々増えていますが、集いに出席された皆さんが、本元の品川稲門会の他の行事へも参加されることを心待ちにしております。

9月9日、第27回総会がTKPガーデンシティ品川にて開催されました。下記をご参照ください。

秋の行事、10月11日に秋のゴルフ会がグレンオクスCCで行われました。10月15日の稲門祭には例年通りテント出店をしましたが生憎天候不順に見舞われてしまいました。11月19日に行われた秋のウォーキングの会では府中から国分寺を訪れ、大國魂神社やお鷹の道を散策しました。

年明けの恒例行事はまず、箱根駅伝応援会が1月3日

に新年会を兼ねて開催されました。母校は下馬評を覆し総合3位と健闘、大いに盛り上がり来年へと期待が膨らみました。会場は漆志穂子品川女子学院理事長が同校カフェテリアを引き続きご提供くださいました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。そして1月7日、今回の七福神めぐりは小石川七福神でした。

春には、3月18日に東京都23区支部大会がリーガロイヤルホテル東京で行われ、品川稲門会からは16名が参加しました。続いて、5月10日に第60回目となるゴルフ会がロッテ皆吉台CCで行われました。同5月13日の母の日には第18回おおもりのジャズフェスティバルが大森ベルポートで開催されました。6月3日の春のウォーキングの会では、開館間もない早稲田大学歴史館や漱石山房記念館を見学しました。

今年の総会は9月8日にTKPガーデンシティで開催されます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(渡辺寿士 H2 法)

## 第27回品川稲門会総会

平成29年9月9日、第27回目の品川稲門会総会が行われました。会場は、品川駅前のホテルグース地下1階、TKPガーデンシティ品川のアネモネの間です。

出席者は36名で物足りない人数でした。例年、出席者を一人でも多くと役員一同声掛けを行っていますが、さらなる努力が必要のようです。

第一部の総会は、塚田成四郎品川稲門会会長の開会の辞から始まって、ご来賓の根本進早稲田大学地域担当部長からご挨拶をいただいた後、議事に入りました。

まずは、小林義行副会長から事業報告と来期の予定、松井博之会計から会計報告、長谷山純監査の監査報告と進み、会場から拍手で承認をいただきました。

また総会議案の一つとして、昭和58年政経学部卒の佐藤清美さんと平成7年文学部卒の岸田洋明さんを役員に

加える案が提出され満場一致で承認されました。

ちょっと緊張した総会も無事終わり、

アトラクションとして立川志ら門さんの落語が演じられました。演目は「時蕎麦」。そばのお代を何とかごまかそうとする場面がおかしくて、会場は一気になごやかな雰囲気となりました。

その流れで第二部の懇親会。濱野健品川区長の乾杯から、ご来賓の西村修一稲門祭実行委員長、金森捷三郎大田稲門会会長にご挨拶をいただきました。



今回は早稲田祭運営スタッフの学生3名が参加しました。聞けば、早稲田祭も予算が厳しい状況で、先輩方のお力をお願いしたいということでした。会場を回ってカンパを募っていましたが、「先輩！お願いします」と言われたら嫌とも言えず、学生諸君は目標を達成したと思います。

賑やかに、和やかに進んだ会も、校歌斉唱に続き、最後は小林副会長の閉会の辞でお開きとなりました。(神野吉弘 S57 政経)